

## 第9回 雲南市総合計画策定委員会 開催結果

### <開催概要>

日 時 2024年1月19日（金）13:00～16:00

場 所 雲南市役所5階 全員協議会室

参加者 （別紙のとおり）

事務局 市役所：石飛市長、吉山副市長、板持部長、鳥谷課長、山本統括主幹

エブリプラン：肥後、鶴見

### <次第>

1. 開会あいさつ（高橋委員長）
2. 市長・副市長との意見交換
3. 議事
  - （1）第3次総合計画基本構想の磨き上げ
  - （2）デザインの方向性
  - （3）その他
4. 閉会



### <市長・副市長との意見交換>

将来像・基本理念を踏まえた具体的なまちづくりの方向性について、市長・副市長の想いを伺い、意見交換を行った。

### ■石飛市長

暮らしというキーワードがあるが、雲南市においての宝、守るべきものは人と人とのつながりであり、他の地域にはない大切にすべきものであると考えている。一方で、これからはU・Iターンの方や、さらに将来、日本人以外の方も地域にいらっしゃる。従来からの血縁の中だけの人間関係ではなく、これから多様な方が増えてくるので、関係性をどう築いていき、人と人とのつながりを維持していくか。ここに変わらなければいけないヒントがあるのではないかと。人権の問題で捉えるのか、地域での活動で考えるのか。例えば、昔は地域ごとに決まりがあったが、その決まりは本当に続けなければいけないのかという意識は地域ごとで芽生えなければ評価できないし、外からも入りにくい。そこが一番の基本的なところだと思っている。

もう一つ、暮らしの中で、生活にコストがかかりにくいという部分では田舎は暮らしやすいと思う。一方で、これから人口が減少し縮小することを考えると、市内だけでなく市外、海外でモノを売っていく、あるいは来られた方に対してをいただいてサービスをしていくことが必要になってくるかもしれない。賃金を出さないと人が確保できない時代になるのではないかと。そういったところの変化も必要ではないかと思う。その変化におけるキーワードは自信や誇り、自分たちが作っているものに対する自負、自然に対する思い入れ、サ

ービスに対する誇りが大事だと思う。雲南市は関西に比べると値付けが弱く、良いものが安い。それが暮らしよさでもあるが、それをどう変えていくか、どうバランスをとっていくかが一つのテーマになると思う。

それから、人口減少している地域こそ守るべきではないか。そうでないと、効率のいい首都圏に人口を集めて、人口が減っている地域は人がいなくてもいいと言っていることと同じである。市街地の機能を守っていくためにも周辺地域を守らなくてはいけない。学校がないと教育が進まないのだから、教育関係も守らなくてはいけない。地域移行を進めているが、これは例えばどこの学校に行っても好きなことができる環境をつくるため。移動販売車も始まっているが、周辺地域で生活する上で買い物も守らなくてはいけない。人が住み続けるために、こういった周辺地域を守っていく変化を起こしていくべき。

そしてやはり自然環境も大きな財産だと思う。雲南市の自然環境は、宍道湖・中海とか、大山国立公園のような大自然ではなく、自然と人間が共存している風景だと思う。それらを守るために、脱酸素の取組や、農業など、何が必要なのかは議論が起こるのではないかと思う。

各地域で様々な活動が行われていることも雲南市の魅力だと思う。キーマンが主体となって、文化活動・スポーツ活動が様々な層で行われている。伝統文化の継承も含め、地域の皆さんが動いていく。この動きは他地域にはない雲南市の魅力だと思う。今後もそういった人をどう育てていくのかが重要。例えば、老人クラブの加入者がどんどん減ってきている。老人クラブに限らないかもしれないが、高齢者が活動する場をいかに維持させ、変化をさせていくのかを考えていかなければいけない。子供の数も減っているのだから、広域的な何かをやっていかなければいけないのではないかと。様々な活動を動かす人・動かす力をどう維持していくのか、そしてその場を守っていかなければいけない。そこが課題だと思う。場と人を守っていきながら、えすこな形にしていければと思う。

地域経済の中には物流があるが、2024年問題に対する回答も作っていかなければいけないと思っている。

10年後にはAIやITなどのテクノロジーの進歩がかなり影響してくるので、それを踏まえチャレンジや変化を考えていかなければいけないと思う。物流や人の動きなどはこれから世の中を大きく変えていくので、議論いただければと思う。

## ■吉山副市長

昨日加茂町のタウンミーティングに参加した。雲南市が合併した当時、節目ごとに住民説明会があったが、その時の光景を思い出した。今回は雲南市のこれからのまちづくりを考えるということだが、当時合併して新しい市ができる時、「生命と神話が息づく 新しい日本のふるさとづくり」をキャッチフレーズにして、ここまでやってきた。大きく変わるこれからの10年にしっかり対応するために、色んなものを変えていかなければならない。昨日のタウンミーティングで聞いていても、「えすこ」にもいろんな捉え方があると感じたので、「えすこな」という言い方も考えていく必要がある。コンセプトや基本理念を議論し、その次の具体的な取組が大事になるので、しっかり議論をしないとまとまらないと思う。どんなまちにす

るかイメージを持つことや心構えはすごく大事なこと。「えすこ」や「変わらず、変える」などのフレーズに、市民一人一人がどう思うのかを知り、共有して次に向かうというのが大事だと改めて感じた。

「変わらず、変える」の部分で、合併から20年経って、雲南市は色々な応援団やファンができた。雲南市が合併したときに、6町村を活かし、地域を大事にしながらまちづくりをしていくというのを基本理念に置いており、その究極が地域自主組織だと思う。最後の砦は地域自主組織の単位で議論して助け合う、そういう自治ができるのが大事だと思っている。まだまだ課題はあり道半ばだが、その理念は今も生きている。雲南市は一人ひとりに自立の意識があるということを感じる。地域がしっかりやっけていこうという気概を持った人材がいるというのが強みであり、他地域から見ても雲南市の良さになるのではないかと思う。これは引き続き守り発展させてほしい。

チャレンジという言葉も出たが、チャレンジには失敗もつきもの。失敗してもまた次に向かえるような温かい地域でないと、チャレンジ精神は続かない。これからも引き続きチャレンジしていきたい。

変えていく部分について、国際情勢や自然災害などに備えをしないと市民の安心安全は守れないと行政の立場で強く感じる。安心・安全を支えていく地域社会にするために、変えていく部分として技術革新がある。それが定着するためにはひとりひとりが学び勉強することが大事。時代の先を見ながら着実に対応していく気持ちをもって社会の変化を活用していくのがすごく大事ではないかと思う。

チャレンジをする中で課題がたくさん出てきているので、応援団の力が必要だと感じた。ファンになってもらうには、雲南市を知ってもらう必要がある。また、人間や食べ物など柔軟な受け入れをすること。これからのためにチャレンジもしていくが、ファンを作り上げて力を借りながら地域課題を解決していく。そして受けたものは必ず返す。そういう気持ちをもって信頼関係を続けながらチャレンジしていくことが大切。

#### ■徳島委員（掛合町地域連絡会議）

総合計画のイメージのところで、西粟倉では百年の森構想がある中で10年という考えだった。スタートというよりたすきをつなぐようなイメージを持って頂きたい。10年後20年後をイメージしながら、その中で変えるものと変えないものを考えて次の代へつなげていければと思う。

#### ■石飛市長

まさに仰るように、たすきである。変わらずの中に出てきたことがこれまで取り組んできたことの成果なので、今までの取組を踏まえながら変えていくことが大事だと思う。それを踏まえた議論をしなければいけない。

100年先まで持続可能なまちにするために、人口減少を食い止めたい。そのためのこの10年だと考えている。

■広野委員（加茂まちづくり協議会）

市長が以前から地域の重視と言っているが、私は真っ向から反対である。

もし市長が地域を活かしながら 100 年後に向けたまちづくりを進めるのなら、具体的な方策を示さなければいけない。

20～40 平方キロの地域自主組織の中に、何人住んでいるのか、本当にその地域を残していけるのか、それを前提とした計画を作ることができるのか、地域の人たちが輝いていける状態をつくることができるのか具体的に示す必要がある。

今後市長の発言に基づいて議論するならば、私としては消化できない話である。

■石飛市長

確かに今と同じような環境は維持できない。ただ、今 10 人でやっていることも半分の人数でできるかもしれない。草刈りロボットを使って省力化や、買い物は自動運転・自動運搬ができるかもしれない。

将来においても人の志向が変わっていく。まちに住みたい人もいればボツンと一軒家に住みたい人もいる。むしろ人口が減った中でもいきいき暮らせる生活基盤をどう維持するか。ここが大きなポイントになってくると思う。

その中ではインフラ整備も必要。そのための最低限の人口規模の維持も必要。周辺地域を守っていくためには周辺人口を上げるだけではないと思っている。人口が減った中でも生き生き暮らしてける環境をつくっていく。そういう視点で議論を進めなければいけない。そのために色々なアイデアや意見をお聞きしたい。

■広野委員

私は私なりの、雲南市に住み続けた中での想いがあるので、私の気持ちを言わせてもらった。

市長が雲南市の舵取りなので、良い方向に向かってほしい。

チャレンジについて。以前からチャレンジだらけだった。どんどんチャレンジはするが、振り返ったら何もなかったというのが多かった。チャレンジをして振り返った時にどうだったのか、そういう反省が雲南市には足りなかった。結局向かっていったけどダメになった、しかし引っ込みがつかなくなって続けてきた事業がたくさんある。そういう先のないものを石飛市長のうちにぶった切ってほしい。

■石飛市長

チャレンジの効果も色々あった一方で、形として成果になったかという反省すべきところがある。しかし若者にとっては特にチャレンジする姿勢や経験に価値があると思っているので、そうした活動は続けながら、チャレンジという名前や形にこだわらずに新しい取組に向けてどんどん変えていこうとする、そこで振り返りながらも前進していく、そうした形になれるように考え直さなくてはいけない部分もあると思う。

#### ■徳島委員

機械化・無人化は自助・共助ではできないのでは。公助でないといけないという認識の話か。

#### ■石飛市長

例えば新しい草刈り機ができたとして、実際にそれを操作して草を刈るというのにはまだ自助・共助が残らざるを得ないと思う。

道路機能を維持するための草刈り（2m）は行政で行うが、環境美化のための草刈りにはできない。このあたりを、地域の皆さんがどこまで許容するか、負担するかのラインを決めないといけない。どんな状態になっても、自助・共助・公助において役割分担の議論は残るので、そういった視点で考えなければいけないと思う。

#### ■石飛市長

今外国人の研修生の制度を見直そうという動きがあり、このあたりでは出雲市がやっている。雲南市ではどうすべきか、外国の方の受け入れをしていったほうが良いのか、皆さんで議論していただきたい。雲南市では外国の方は企業のコミュニティの中にとどまっています、地域コミュニティでの関わりはほとんどない。

これは大きな要素でいろいろな考え方があると思うので、皆さんで議論いただくと、これからのイメージが具体化するのではないかと思う。

#### ■高橋委員長

僕は外国の方にどんどん来て頂くべきだと思う。他の国では普通のこと。島国の日本、その中の雲南市だと難しいのではと考えるのかもしれない。

僕の会社では、インドネシアの大学と商工会議所がタッグを組んでインターンをどんどん送り込んでいる。向こうは若者が多すぎて、働き口がない+技術を教えてほしいということで日本へやってくる。月額15-16万円で働いている。

条件として1、2年くらい日本で働き、国へ帰ったときに、日本は現地に工場を建てるときは土地と建物を用意してもらえ。日本は向こうに設備を持っていくだけ。向こうはどんどん来てほしいというのが狙い。

雲南市で人手不足だったり、外貨を稼ぐときに向こうに拠点がある、という状態をめざすのはありではないかと思う。市としてバックアップしてもらい、向こうの大学と一緒に仕事ができれば良いと思う。

#### ■石飛市長

望むと望まざるとにかかわらず、そういう時代がくるという考え方もある。そこをチャンスと捉えて積極的に取り組むべきという考え方もあるし、外国人に対してネガティブに捉える方もいる。いろんな意見があると思う。企業ベースで考えると労働力の確保になると思うが、地域の自治会や学校においてはどうあるべきか、というのは大きな課題になると思う。

う。

日本にそのまま帰化していただくというイメージを持つとすると、人口減少対策になるかもしれないが、課題として諸刃の剣になる可能性もある。ぜひこうした視点を入れていただくと、議論が深まると思う。

■陶山委員（木次町地域連絡協議会）

外国の方が来るのは良いことだと思う。ただ労働力としてだけではよくない。受け入れるのであれば意思疎通が一番大事だと思う。人手が足りないところはたくさんあるので、そういうところに来てもらって、日本に来たからには日本語の勉強もしてもらうべき。そのためにはその施設・企業内だけではできないので、公助という形で行政に力を発揮していただく。帰化していただければ人口の減りもゆっくりになるので、良いことではないかと思う。

■吉山副市長

今はつくることに一生懸命だが、つくった後が大事だと思う。一緒に作り上げ実行するというのが大事。みなさんがプレーヤーとなるような総合計画を目指してほしい。

■石飛市長

縷々言ったが、正解がこれだけではないと思っている。  
こうなったらいいなというアイデア、想いをみなさんと語ってほしい。それを吸収したい。  
自由な議論をお願いしたいと思う。

【将来像】えすこな 雲南市

基本理念	変わらず	変える
えすこに暮らす (暮らし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人とのつながり</li> <li>・地域自主組織による自治</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティ、インクルーシブ (外国人、女性、障害者…)</li> <li>・地域の人権意識</li> <li>・障がいを持つ人とのつながり</li> <li>・外とのつながり (Iターン者、外国人)</li> <li>・周辺地域を守る</li> <li>・教育・買い物</li> <li>住み続けていくために変えていくべき</li> </ul>
えすこに創る (経済・環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境</li> <li>里山</li> <li>自然と人との共存</li> <li>脱炭素/農村</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしやすさと経済価値の変化</li> <li>・高価格商品・サービスの開発</li> <li>・物流の最適化</li> </ul>
えすこに育む (人づくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動 (文化・スポーツも含めて)</li> <li>・地域のキーマン (文化・スポーツ・活動) と場の維持</li> <li>・チャレンジ精神</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応援の仕組み</li> <li>・応援団 (ファン) をつくる・恩返しの関係性も</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT・ロボット、デジタル化へのチャレンジ</li> <li>・技術革新を学ぶ</li> <li>・評価・振り返り</li> <li>ヤメルことが不十分</li> </ul>

・外国人の受け入れ (研修生) どう考えるべきか？

<基本構想の磨き上げ>

将来像「えすこな雲南市」をめざすために、何が「変わらず」何を「変える」のか、グループに分かれて意見交換を行った。

えすこに暮らす（暮らし）

変わらず	変える
<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山 環境 草刈り</li> <li>・地域自主組織の仕組み</li> <li>・自治会での行事</li> <li>・自助・共助の継続、災害時でも安心して暮らせる</li> <li>・地域で子どもを見守る関係性</li> <li>・人と人との温かいつながり</li> <li>・人の関係（えすこ）</li> <li>・自然を守る・楽しむ</li> <li>・文化・食</li> <li>・共助・相互扶助の重層的実装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈り応援団</li> <li>・自治会、地域の再編成</li> <li>・DX、IT、AI の活用</li> <li>・必ずしも必要ではない行事をやめる</li> <li>・つらい作業（草刈り・除雪とか）の緩和</li> <li>・保健・福祉業務委託</li> <li>・生涯スポーツ支援</li> <li>・自宅に居ても医療・買物がネットでできる環境整備</li> <li>・地域の行事・活動の仕組み（集約・簡素化）</li> <li>・移動手段</li> <li>・地域行事の本質の見直し</li> <li>・負担のない自治運営・消防団</li> <li>・地域組織の再編</li> <li>・話し合いと向き合う</li> <li>・本音と言える</li> <li>・自主組織単位でのとりくみ</li> <li>・自治会（強制的な関係）</li> <li>・消防組織は再編必要かと</li> <li>・お祭り・イベントの再編</li> <li>・多様性</li> <li>・集住エリア開発の事例づくり、多極集中型（ex.ニエコミライ）</li> <li>・ペットにやさしいまち、半数の事業所でペット可</li> <li>・自治会・消防とか、ありかた・やりかた</li> <li>・自治会等のいらぬイベントをやめる</li> </ul>

えすこに創る（経済・環境）

変わらず	変える
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和 永井隆 附加価値</li> <li>・自治会担い手不足 1人/三役</li> <li>・里山の豊かな自然風景、自然環境を守る (棚田・里山・遊べる山・川・森)</li> <li>・つながり・経済</li> <li>・食文化を守る・伝える</li> <li>・自然の豊かさ</li> <li>・自然農作物（資源）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の森林王「田部」バイオマス事業</li> <li>・モノの売り方 PR 方法</li> <li>・お金の地域内循環の仕組み</li> <li>・草刈り（景観保持）（鳥獣対策）⇒改革 テクノロジーを取り入れる（少ない住民で負担軽減）</li> <li>・今あるものが存続できなくなる状況（景観・田畑） 予算配分の見直し（チャレンジ etc とのバランス）</li> <li>・伝統工芸等、高価格で提供</li> <li>・柔軟な働き方の選択肢を増やす</li> <li>・松江・出雲にあって雲南に無いもの、雲南にあって松江・出雲に無いものを相互連携</li> <li>・近隣市町村とのコラボ、良い所を分かち合う観光客の誘導</li> <li>・地域通貨、えすこポイント</li> <li>・農業の魅力化（稼げるシステム・天候に左右されない）稼げる農業</li> <li>・もっと命（生物全て）が循環するシステム</li> <li>・整理・止める</li> <li>・企業どうしの連携のしくみをつくる（強化する）</li> <li>・稼ぐまち</li> <li>・再生可能エネルギーの実装（ex.発電・送電・蓄電施設）</li> <li>・自給自足</li> <li>・雲南にあるものないものを使って他市町村とコラボ</li> </ul>

えすこに育む（人づくり）

変わらず	変える
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがのびのびと育つ環境</li> <li>・「チャレンジするなら雲南市」のフィールド</li> <li>・地域授業（学習）地域の人からの教育・学ぶ</li> <li>・チャレンジを応援する環境</li> <li>・高校でのキャリア教育</li> <li>・文化・各地の神事やお祭り</li> <li>・ふるさと教育</li> <li>・お祭りを残す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の異文化交流</li> <li>・教育格差</li> <li>・待機児童ゼロ</li> <li>・高齢者の生きがい＝若者への継承</li> <li>・小さい「やってみたい」を応援できる環境</li> <li>・小・中・（大）でも特色あるキャリア教育</li> <li>・知名度アップ マスコミ・メディア・SNS・YouTube の活用</li> <li>・専門学校を誘致（日本語学校など）</li> <li>・異文化（外国人）との交流</li> <li>・学校</li> <li>・テクノロジー・経済・グローバル・学び</li> <li>・多様な居場所</li> <li>・専門学校をつくる</li> <li>・キーパーソンの若返り→ex.定年制</li> <li>・シニア向け次（々）世代育成する居場所</li> <li>・お金稼ぐ授業</li> <li>・学校に行きにくい子どもの学校でも家でもない居場所づくり</li> </ul>

その他

変わらず	変える
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に理想から</li> <li>・地域の祭りやイベント</li> <li>・不便さを楽しむマインド</li> <li>・自治</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗に学べ</li> <li>・事業評価・成功事例・失敗事例の評価</li> <li>・政策も市民も考える仕組み</li> <li>・もっと賛否があるぐらいがえすこ</li> <li>・チャレンジ後の振り返り</li> <li>・テクノロジーの活用</li> <li>・AI 活用先進地域</li> <li>・えすこ評価・個人●業</li> <li>・金と技術の研究所 for 雲南</li> <li>・えすこエコノミー研究所</li> </ul>

<12の施策についての磨き上げ>

12の基本施策の表現について、グループに分かれて意見交換を行った。

12の基本施策（案）	コメント
地域の特性を活かしたまちづくりが主体的に行われている #協働・自治・コミュニティ	
それぞれの土地に合った住みよさ・暮らしやすさが感じられる #交通・インフラ・土地利用・DX・防災・交通安全	・安心・安全で暮せる、住みよい ・住みよさ→住みやすさ ・DX→わからない方がいる ・DX→全部に関係ある→【横断プロジェクト】へ
住民同士の支え合い（おせっかい）により、誰もがいきいきと健やかに暮らしている #高齢者福祉・障がい者福祉・健康づくり・医療・福祉	・（おせっかい）必要？どちらかだよいのは ・ <del>（おせっかい）</del>
家族や地域のあたたかなつながりの中で安心して子どもを育てられている #結婚・出産・子育て・家族	・#家族（結婚の前に） ・結婚と子育ては必ずしも同項目にならないのでは？ ・子どもに限定？
子どもたちがワクワクする学びを自ら発見し、挑戦している #教育・子育て	・子育て？成長 ・学びを→環境の中で ・挑戦している→挑戦する
「如己愛人」の精神でお互いを尊重し、みんなが安心して暮らしている #人権・男女共同参画・多文化共生	・みんなが平和に暮せる ・「如己愛人」の意味が分からない人も多いのでは
好きなことを楽しめる環境が整っている #生きがい・生涯スポーツ・歴史文化	・みんなが生きがいをもって楽しめる ・ふわふわしている
雲南市に愛着を持ち、まちづくりに関わる人の輪がひろがっている #移住定住・人材還流・関係人口	・人材還流・関係人口→わからない方がいる
里山の恵みを活かした持続可能な循環モデルが確立されている #自然環境・エネルギー・食	
雲南発の新しい技術・サービスがどんどん生み出される #産業・経済、起業・新産業	・～ためのサポート ・新しい技術・サービス→「仕事」を追加 ・稼げるまち イメージの方が良い
雲南が誇る文化や資源を通じて	・ブランディング→わからない方がいる

世界とつながっている #観光・ブランディング、地域間連携	
【横断プロジェクト】 チャレンジにやさしいまち #人材の育成・確保、新しいお金の流れ	・DX 関係ある
(その他)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイトル「えすこな 雲南市」を実現する (ための取り組み) ?</li> <li>・短い文章で! (全体) 15 文字くらいまで! 若手職員検討会議のほうが良い!</li> <li>・「~まち」の方がわかりやすい</li> </ul>

## <デザイン>

総合計画のデザイン（案）について説明し、感想・意見を頂いた。

### （感想・意見）

- コウノトリ目線というのが、ストーリー性があって誰でもわかりやすく良いと思った。タイトルの堅苦しさについては、これでも良いと思ったが、タイトルの上に小文字で「総合計画」と入れた方がより分かりやすいと思う。総合計画だけど絵本のストーリーというのが良いのではないかと思った。
- 人口ビジョンの素案と将来のまちの姿で4ページを使っているが、1ページずつにまとめて、最後の見開きに動物たちと食事をしている絵が個人的に良かったのでそれをもってきて、鳥と重ねてこういう未来になった、という風景で終わるのはどうか。そこに何か一言メッセージがあるとなお良いと思った。
- 最後の「ぼくたちの未来のこと」を「未来予想図」にしてはどうか。
- 絵本みたいに読みやすくとのことだったが、第一印象として文字がすごく小さいと思った。これから議会にも出される段階で、もう少し字を大きくした方が良いのではないかと思う。
- 今更ながら10年というのが引っ掛かる。激変する社会情勢の中で、10年というのは本当に適切なのか疑問に思っている。前回から10年経ったからということだと思うが、これから先10年というのは行政目線ではないかと思う。市民に理由を説明できるならいいが、今の時代10年先に何が起きるか分からない。答えがあるのなら10年でもいいと思うが。
  - 期間を何年に設定するかというのは、そういう議論があってしかるべきだと思う。最初に検討をしていたが、半期の5年で見直しをかけるようになる。もう少し方向性も変えていかなければならないということになれば、5年の時点で見直しをさせていただきたいと思っている。
  - 10年が絶対ということではなくて、そういう目で見ていきたいと思う。
- めちゃめちゃ素敵だと思う。手元に来るのが楽しみ。せっかくコウノトリの視点で物語が進んでいるのに、基本理念のところでは誰がしゃべっているのかがわからなくなる。しゃべっている風が良いと思ったので、基本理念も、コウノトリでなくても何か動物などがしゃべっている方が、世界観が統一されよりよくなると思う。